

勝山市総合行政審議会（第12期第3回）結果概要

- 開催日時 平成24年9月26日（水） 午後6時30分～午後8時30分
- 開催場所 勝山市役所3階 第1会議室
- 出席者等 出席委員 9名
事務局 企画財政部未来創造課

1 会長あいさつ

2 審議

- (1) 平成23年度勝山市政策基本目標外部評価について

【質疑応答】

241 子育て支援策の充実 内部評価5 ⇒ 外部評価5（－）

●委員

- ・施策指標の目標数値は第5次総合計画で示した人口推計に基づいて立てた数値でよいか。

○事務局

- ・その通り。人口推計に基づく年間出生見込み数を上回る年間出生数を目標としている。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

242 子育て環境の充実 内部評価4 ⇒ 外部評価4（－）

●委員

- ・幼保一元化を含めた保育サービスの充実については、国の動向が定まっていないのだから、目標に掲げる必要性がないのではないか。

○事務局

- ・幼保一元化については、国の動向に関係なく、以前から目標として掲げている。最初から国の動きがないのであれば市独自で決めるのだが、国の動きが見られるので、その結果を踏まえて決めたいと考えている。

●委員

- ・第3子以上のお子さんが生まれた時に、すくすく育成奨励金が支給されているが実施状況はどうか。

○事務局

- ・平成23年度は新規が39件、継続が85件あった。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

251 地域医療体制等の充実 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・かかりつけ医を周知した健康教室、講演会は年にどれくらい実施しているのか。

○事務局

- ・講演会は3回、健康教室は2回実施している。

●委員

- ・講演会等の回数を増やせば、かかりつけ医の周知効果が上がるわけではないが、市として適正な回数だと考えているのか。

○事務局

- ・周知については、奥越圏域全体の医療を守るために、機会があるごとに行っている。具体的な数値目標を持っているわけではない。

●委員

- ・社会保険病院では一部の専門医が常時不足している。全国的な傾向なので難しいと聞いているが、社会保険病院の存続のためにも、奥越二次医療圏を守るためにも継続して周知を図ってほしい。

○事務局

- ・透析医などの専門医や分べん機能など、奥越圏域で全ての分野をカバーできていない。国や県への要望、他の医療機関との連携、中核病院としての位置付けなどによって、社会保険病院の存続に向けて努力していきたい。

●委員

- ・医師は一般的に専門を持っていることから、総合医としてのかかりつけ医は、なかなかいない。かかりつけ医である専門医のネットワーク構築や検診の周知など、医療に関する全体的な取り組みが必要。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

252 安定した国民健康保険制度の運営 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・目標達成しているので評価5でよいのではないか。全体的に見て、目標は達成しているが、担当課としての思いから評価を下けている項目が多くある。

○事務局

- ・目標は全て達成したが、平成22年度と比較してメタボリックシンドローム予備群が増えたため。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

253 国民年金窓口サービスの充実 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・国民健康保険税の収納率は高いと聞いているが、国民年金の納付率は非常に低いと感じる。

○事務局

- ・施策指標の数値は全国平均。勝山市の平成23年度納付率は75.5%なので、全国平均の58.6%と比べるとかなり高い。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

261 消防体制の充実 内部評価4 ⇒ 外部評価5 (↑)

●委員

- ・無火災連続日数が途切れたからといって、評価を下げることはないと思う。

●委員

- ・消防団員数293名のうち、女性団員は何名いるのか。

○事務局

- ・24名いる。

●委員

- ・内部評価は4だが、外部評価は5でよろしいか。

●委員

- ・異議なし

262 救急体制の充実 内部評価4 ⇒ 外部評価5 (↑)

●委員

- ・女性消防団員全員が応急手当普及員の資格取得を目指している。仕事を持つ人が多い中で、6名の取得は多い数字だと思う。

●委員

- ・女性消防団員24名中、応急手当普及員未取得者が6名は立派な数字。

●委員

- ・内部評価は4だが、外部評価は5でよろしいか。

●委員

- ・異議なし

263 総合的な防災体制の確立 内部評価4 ⇒ 外部評価5 (↑)

●委員

- ・目標はほぼ全てクリアしているのに、評価4は低いと思う。

●委員

- ・防災と防犯は、かなり一所懸命に取り組んでいると思う。

●委員

- ・防災無線が聞こえづらく感じたことがある。市民の方はどう思っているのか。

○事務局

- ・平成22年度は68%しかカバーできていなかった。現在急ピッチで各地に子局を設置していて、平成23年度はカバー率が75%になった。100%を目指して設置を進めている。

●委員

- ・熱中症の注意に関する放送が毎日行われている。慣れてしまって、大事なことを聞き逃してしまう。

●委員

- ・熱中症予防は大切なことだが、その情報の発信方法がオオカミ少年のようにならないようにしてほしい。

●委員

- ・内部評価は4だが、外部評価は5でよろしいか。

●委員

- ・異議なし

264 交通安全対策の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・自転車事故が多いのは、高校生。自転車事故の結果、5,000万円の賠償命令が出た判例もある。中高生に対する指導はどうしているのか。

○事務局

- ・中高生に対しては、行政として年何回か市内約30カ所で街頭啓発を実施して、その場で指導している。PTAなどでも実施している。
- ・また、各学校で登校・下校指導、安全教室、街頭啓発などを実施している。

●委員

- ・事故率は高校生が一番高い。小中学生の頃からの教育は大切。粘り強くやっていくしかない。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

265 防犯の推進 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・LED型街灯設置と犯罪発生率とは関係があるか。

○事務局

- ・検証はまだできていない。集落間の暗い部分を明るくすることは、安全安心の観点から大切なことだと思っている。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

266 消費者保護の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・被害額が大幅に減少している。すごい。

●委員

- ・何件でこの額か。

●委員

- ・数値の算出基準が分からない。

○事務局

- ・クーリングオフなどで取り返した額や、相談に来られて未然に防いだ額を合計している。平成23年度では被害未然防止額が年間8,173万円となった。被害額は、契約額から取り返した額を差し引いた金額。
- ・相談に来て初めてお手伝いができるので、さまざまな啓発活動によって、消費者センターの認知度を上げる取組みをしている。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

3 1 1 集落を基盤に考える地域農業の振興 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

- ・農地利用集積割合とはどういったものか。

●委員

- ・耕作農地の何%が担い手に集積しているかということ。個人の農地を担い手に集めるという国の政策。

○事務局

- ・認定農業者43人、農業生産法人8法人、集落営農組織19組織が、勝山の農地の48.8%を利用している。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

3 1 2 循環型農業を基軸とした勝山形農業の推進 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・エコファーマー米とはなにか。

●委員

- ・減農薬栽培や有機農法などで米を生産するエコファーマーが、JAに出荷した米のこと。

●委員

- ・実績がかなり低い。有機農法では収穫料が減るため、収益を上げることは難しいのではないか。なにかしらの支援策があるのか。

●委員

- ・大型農業を実施している農家ではなかなかできない。小さな面積を担っている農家がやっている。

●委員

- ・担い手への農地利用集積を進めることと矛盾するのではないか。

○事務局

- ・JAでは、取り扱う米のうちエコファーマー米の割合を平成25年度に100%にすることを目標にして進めている。勝山市としても目標をJAに合わせている。
- ・エコファーマーに対する補助制度はない。ただし、経営支援などは行っている。

●委員

・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし

313 経営効率化に資する生産基盤・農業用施設の適正な機能の確保 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

・大用水の水利権更新協議とはどういったものか。

○事務局

・大用水は九頭竜川から取水して市街を潤している用水。ただ、取水制限がかなり厳しく、勝山では農業や生活用水、流雪溝などで使用しているが、まだまだ足りていないので制限を緩和するよう国交省と協議を重ねている。

●委員

・水利権は非常にシビアな問題。頑張ってもらいたい。

○事務局

・現状に合わせた取水ができるように交渉を続けていく。

●委員

・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし

314 鳥獣害防止対策の推進 内部評価5 ⇒ 外部評価5 (一)

●委員

・被害面積は減っているが、鳥獣の数も減っているのか。

○事務局

・イノシシは非常に増えている。

●委員

・山際に柵を設置しているが、どんどん下に降りてきている。昔は里にイノシシはいなかった。

○事務局

・個別に農地を柵で囲むのではなく、山際全体を柵で囲み、緩衝帯を設置したり、ネット柵と固定柵、電気柵を組み合わせたりするなど工夫して対策している。ただ、イノシシの数が非常に増えているため、里でも目立つようになった。

●委員

・たくさん捕獲しボタン鍋等、名物に押し上げるのはどうか。

○事務局

・まちづくり団体ではさまざまな取り組みしている。ただ、獣肉をあまり食べない地域ゆえに定着しない。

●委員

・処理場がないことが、一番の課題。

●委員

・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

3 2 1 持続的な森林管理の推進 内部評価 4 ⇒ 外部評価 4 (一)

●委員

- ・目標設定自体が減少を前提にしており後ろ向きな感じを受ける。他市では何とか木を売ることによって森林保全や林業振興に成功している例もある。積極的に考えていく方向もあるのではないかと。

○事務局

- ・人口減少や集落の活力が厳しくなっていく現状をみて、総合計画でも人口減少を前提として、それを押しとどめることを目標にしている。林業経営体についても、現状維持を最大として減少率を抑える努力をしている。
- ・林業は一昔前の50年サイクルではなく、120年サイクルで行わないと成り立たない。収益を上げることは現状では難しい。

●委員

- ・間伐材を山に置いて帰るのを見て、「もったいない」と言ったら、「大根より安い」と返されたことがある。それくらいの値打ちしかない。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

3 2 2 多様な活動主体による森林活用 内部評価 5 ⇒ 外部評価 5 (一)

●委員

- ・果樹のなる木を植えていくということか。

○事務局

- ・林業を商売として位置付けているのではなく、森林活用の一環として、クマなどの生態系の維持のためドングリのなる木を主に植樹している。長期的には効果があると考えている。

●委員

- ・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

3 3 1 水産資源の保護・活用 内部評価 3 ⇒ 外部評価 3 (一)

●委員

- ・鮎釣り客が減った原因があるのか。

○事務局

- ・夏前に大水があり、鮎が流されてしまった。

●委員

- ・内部評価は3だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

3 4 1 活力ある商業経営の支援 内部評価 4 ⇒ 外部評価 4 (一)

●委員

- ・平成24年度はなぜプレミアム商品券がなかったのか。

○事務局

- ・市と商工会議所がタイアップして、平成23年度は5%のプレミアを付けて販売したが、売れ行きがよくなかったため。

●委員

- ・商品券は市内どこでも使えるのか。

○事務局

- ・登録された店舗であればどこでも使用できる。PR費用も事業者に上乘せしたが、売れ行きがよくなかった。

●委員

- ・売れなかった検証はしたのか。完売はしたが、市民からありがたがられなかったのか。

○事務局

- ・平成22年度には、国の交付金を受けて10%プレミアで実施している。これと比べて魅力が低かったものと考えている。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

342 地元企業への支援 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

343 起業家の育成・支援 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・インキュベート施設とは具体的にどういったものか。

●委員

- ・地場産業振興センターの一室を、新規事業者に安い賃料で貸し出している。現在は空き部屋があると聞いている。活用がされていないのではないか。

○事務局

- ・PRしても入居者が集まらないので、分野をITに絞らずに募集することを検討している。

●委員

- ・創業塾の受講者が2名ということか。平成24年度は10名以上と聞いている。

○事務局

- ・創業した人が2名。実際は10人以上が受講している。
- ・商工会議所で実施している。創業塾で起業計画を立て、専門家のアドバイスを受けて起業する人を育てている。創業塾受講生が起業する際には補助金を支給している。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

3 4 4 企業誘致の推進 内部評価 4 ⇒ 外部評価 4 (一)

●委員

- ・市外からの企業誘致による新規雇用者が 8 名もいるのか。

○事務局

- ・福井市から 1 社誘致しており、この会社で 8 名の新規雇用があった。

●委員

- ・工業振興活用助成金の対象範囲を拡充とはどういったものか。

○事務局

- ・工業振興活用助成金の要件である勝山市民の雇用者数を緩和している。勝山市内からの新規雇用者数を維持することは、離職者もあって難しいという声が産業界からあった。また、市外から企業が来てくれることが一番だが、昨今の情勢から難しいこともあって、既存企業の増設に対しても助成金を交付している。

●委員

- ・内部評価は 4 だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

3 5 1 着地型観光による誘客の推進 内部評価 5 ⇒ 外部評価 4 (ㇷ)

●委員

- ・観光振興ということは、観光客数の増加が大切。観光客数が減ったら意味はない。

●委員

- ・平成 2 2 年度の実績と比べても減少している。

●委員

- ・総合計画の基本的な考え方には、成功すれば全国的モデルになるようなことが記載されている。市民も観光客も満足できる体験型交流は大規模なものではできず、利益も多くは望めない。その中で、観光客数を増やし、観光消費額を増やすというのは、性質が違うのではないか。目指している方向が違っていて、達成は難しいと思う。
- ・体験型交流による観光は、市が市民をリードしないと難しいのではないか。
- ・観光客が大幅に増えた場合、市民や観光客が本当に満足するものになるのか疑問。

○事務局

- ・まちづくりという観点で、ジオパークやエコミュージアム、体験交流などを実施している。来年度の評価に向けて整理したい。
- ・地域経済活性化のためにも、観光客の増加を目指し、観光消費額を増やしたいという思いもある。

●委員

- ・内部評価は 5 だが、観光客数が減っているということで、外部評価は 4 でよろしいか。

●委員

- ・異議なし

●委員

・評価にあたって、誘客の目的に合った枠組みを作ってほしい。

3 5 2 イベントや環境整備による賑わいの創出 内部評価 5 ⇒ 外部評価 5 (一)

●委員

・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし

3 5 3 観光営業の強化 内部評価 3 ⇒ 外部評価 3 (一)

●委員

・内部評価は3だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし

3 5 4 広域観光の展開 内部評価 3 ⇒ 外部評価 3 (一)

●委員

・市内宿泊者数が減っている。

●委員

・震災の影響もあったのではないか。

●委員

・内部評価は3だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし

4 1 1 まとまりのある都市構成と土地利用の推進 内部評価 5 ⇒ 外部評価 5 (一)

●委員

・内部評価は5だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし

4 1 2 道路網の整備 内部評価 4 ⇒ 外部評価 4 (一)

●委員

・築50年を経過する橋梁がどんどん増えてくる。橋梁長寿命化修繕計画の対象は市道でよいのか。また、対象となる橋はどれくらいあるのか。

○事務局

・基本的には市道。管理している橋梁数は414あり、対象となる橋長15m以上の橋は65ある。

●委員

・橋梁を造るのは簡単だが、補修には非常にお金がかかる。頑張っていただきたい。

●委員

・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

・異議なし

4 1 3 公園緑地の整備 内部評価 4 ⇒ 外部評価 4 (一)

●委員

- ・評価理由にある翌年度に繰越した事業とは何か。

○事務局

- ・恐竜博物館前駐車場の舗装を平成24年4月に実施した。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

4 1 4 河川の整備 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

●委員

- ・大蓮寺川改修事業（バイパス）の進捗とはなにか。

○事務局

- ・県の事業として大蓮寺川の氾濫を防ぐために、元禄線の地下に放水路を設置する計画がある。県に対して早期着工を要望しているが、計画の見直しなどがあって工事が始まっていない。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

4 1 5 中心市街地の整備 内部評価5 ⇒ 外部評価4 (ㇷ)

●委員

- ・勝山駅での年間乗降客数が減っている。

○事務局

- ・えちぜん鉄道全体では乗降客数は伸びているが、勝山永平寺線が減少している。人口減少と観光客の自動車へのシフトが原因と思われる。

●委員

- ・JR越美北線と比較すれば非常によくやっている。
- ・観光面において、公共交通機関を利用する観光客の方が、地域経済効果が高いことは調査の結果分かっている。宿泊や飲食などで消費がある。

●委員

- ・内部評価は5だが、えちぜん鉄道勝山駅における年間乗降者数が減少していることから、外部評価は4でよろしいか。

●委員

- ・異議なし

4 2 1 利用しやすいバス体系の整備と利用促進 内部評価4 ⇒ 外部評価4 (一)

○事務局

- ・勝山の地形上、路線が放射線状に広がっており、効率的な巡回が難しい。デマンドバスも積極的に活用し、利用しやすいバス路線の研究を進めている。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

4 2 2 乗りやすい鉄道の整備と利用促進 内部評価3 ⇒ 外部評価3 (一)

●委員

- ・えちぜん鉄道の勝山市内の乗客数に比べて、先にあった勝山駅の乗降客数が少ない。

○事務局

- ・4 1 5で示した勝山駅での乗降客数は、中心市街地の整備による乗降客数の増加を目指しているため、定期利用者を外している。
- ・4 2 2では、乗りやすい鉄道の整備と利用促進を目指しているため、定期を含めて全体の乗降客数を記載している。

●委員

- ・内部評価は3だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

以上